

CAPNA

キャプナニュースレター53号

「出産した女兒を、自宅のトイレの窓から捨てた母親を殺人未遂容疑で逮捕」(新潟)

「1歳の長男の遺体をコンクリート詰めした母親と内縁の男を逮捕」(京都)

いずれも、今月に起きた事件です。

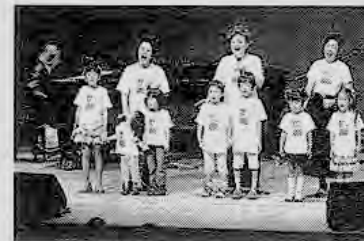
格差社会の中、「親になった喜び」を感じることができない若い世代を、どう支えていけばいいのか。虐待問題から見えてくる社会のひずみは、深刻です。

Vol. 53

チャリティコンサートで虐待防止に協力

9月17日、元保育園長3人によるチャリティコンサート「愛と子どもと人生と」が名古屋市内で行われました。

北原和子さん、丹羽昭子さん、伊藤あや子さんで結成されたユニット『シャンソン・ド・マダム』の慈愛に満ちた素晴らしい歌声は、会場へ集まった300人近い観客を魅了しました。この日集まった募金、約27万円は挨拶に訪れた菱田理・CAPNA理事長へ手渡されました。



DV 被害者自立に向けて寄付金を募集します

CAPNAの友好団体である国際ソブチミスト名古屋は、名古屋子ども青少年局育成課からの要請で「DV被害者自立支援基金」を立ち上げることになりました。DV被害者の方は家を出たり、追い出されたりした時に着の身着のままという方も多いと聞きます。そのような場合に食事代や交通費などの緊急貸付ができるようお手伝いすることになりました。この「DV被害者自立支援基金」は多くの方の善意による寄付により運営されています。皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。詳細は同封チラシをご覧ください。

(国際ソブチミスト名古屋 DV被害者自立支援基金運営委員会 江崎恵子)

ご寄付

次の皆様からご寄付をいただきました。お礼申し上げます。

(8月-10月分、順不同、敬称略)

【団体】「愛と子どもと人生と」チャリティコンサート、ボランティアフェスティバルあいち・なごや、パブリックリソースセンター

【個人】伊藤純子 川島志穂 辻本恵子 田島淑子 大森直子

CAPNAニュースレター53号 (隔月刊37号)

2007年10月19日発行

発行 特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネットワーク・あいち

編集 CAPNA事務局広報チーム

事務局 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-4-404 TEL052(232)2880、FAX052(232)2882

12月は「みえ大会」へどうぞ！

駒田美博大会長インタビュー

虐待防止学会の第13回学術集會みえ大会が12月14、15日、三重県津市の三重県総合文化センターを主会場に行われます。東海地方での開催は、CAPNAが事務局を務めた2000年のあいち大会に次いで二度目です。大会長を務める三重大大学院教授（小児発達医学分野）の駒田美弘さんに、大会への思いをうかがいました。（安藤 明夫）

—どんな準備をされてきましたか？

実行委員会の最初の会合で「学会だけをやって、それで終わりではない。虐待防止の推進につながっていくチャンスにしたい」と申し上りました。もちろん専門の先生方は高度な議論の機会になるわけですが、この大会は、いわゆる・学会・とは様子の違ったネットワークです。この1年、実行委員会のメンバーが教師の研修会、保育士さんの勉強会などいろいろな場にお邪魔して、虐待防止について話をさせていただきました。三重県は南北に細長い県で、津で学会を開いても、地域的に身近に感じない人も多い。県全体で盛り上げていくために、こちらから出かけていったのです。そうした思いを込めたのが、特別講演や国際シンポです。



—これまでの学会とは確かに雰囲気は違いますね。

虐待の処理とかケアだけでなく、もう少し広い「子育て文化」の中で虐待防止を考えていきたいという思いがありました。虐待の重みを一般の方々に受け止めていただくだけでなく、社会の力として、子育ての問題をとらえていただきたいと思いました。柳田邦男さんの特別講演は、日本の「絵本」が持っているパワーを考えていくもの。国際シンポは、アジアのそれぞれの国の子育て文化の中から虐待防止の機能を見つけていこう、お互いに学び合おうという目的です。虐待防止の力を大きく膨らませていく学会にしたいですね。

—実行委員会のメンバーも多彩ですね。

多くのNPOの方々にも参加していただきました。実行委員会を通じて知り合って、一緒にお茶を飲むだけでも、地域のネットワークにつながっていきますよね。もちろん、CAPNAさんをはじめ愛知や岐阜の方々も来ていただき、交流していくことは大きな力になっていきます。事務局を引き受けるのは仕事量が増えるけれど、それ以上のメリットがあるのだと考えています。

日本子どもの虐待防止学会第13回学術集會みえ大会

大会テーマ「みんなナイス！聴こう 親のものがたり 子どもの気持ち」

重点テーマ 子育て文化の創造

家族へのとぎれない支援

回復につながる司法との連携

◇プレ企画（12月13日（木） 三重県総合文化センター）

17:00 映画「長い散歩」上映

孤独な老後を送る元校長と、虐待を受けて心を閉ざした少女の旅を通じて「家族とは何か」を問いかける作品です。

19:20 奥田瑛二監督トークショー

◇プログラム

第1日目（14日 9:30～20:00・三重県総合文化センター）

8:30 開場 受付開始

9:30 開会式

10:00 特別講演「心を育てる読み聞かせ～絵本の力再発見」 柳田邦男氏

13:00 学会総会

13:30 指定講演（厚生労働省、文部科学省、最高裁判所）

14:40 国際シンポ「アジアの子育て、虐待対応から学ぶこと」

17:30 三重県特別企画「ドゥーラ物語 若年妊娠の支援」

自主企画

第2日目（15日 9:00～17:00・三重県総合文化センター、アストプラザなど）

9:00 分科会

13:00 一般演題 講演 ポスター発表

14:30 分科会

単独分科会 「今、再び、性的虐待について話そう」

事例検討分科会「周囲の心理的後遺症への無理解による治療の困難性」

参加費 会員・・・9000円

一般・・・10000円

学生・・・3500円（大学院生を除く）

事務局＝三重大大学院医学系研究科 病態解明医学講座小児発達医学分野内

FAX：059-231-5339

詳しくは、ホームページ＝<http://jecs.org/jaspcan13/top.html>